

交通安全施設の設置について

問

交通死亡事故が3月に中山町下長沢で横断歩道を横断中に発生した。17年7月にも同じ場所ですぐに遭い、今も入院をしている。この付近は、事故が多発している。点滅信号の設置も必要と思う。交通安全協会・伊予警察署・伊予市が連携を密にし、一日も早い安全施設の設置を問う。

答

篠崎副市長

事故発生現場は、旧中山町のときから信号機設置の要望があったと聞いている。

信号機の設置は、カーブがあり、信号機が見えにくく、追突事故のおそれがあるとの愛媛県警察当局の判断であった。それに対処するため、旧中山町で

田中 弘 議員



下長沢に設置の電光交通安全表示板

平成7年度に、パライト付き電光交通安全表示板を設置し、市で管理している。

現在、伊予交通安全協会から伊予警察署を通じて、県警本部に点滅信号機設置の要望をしている。その状況によると、信号機はより危険度の高い交差点に優先的に設置され、信号機設置により、新たな事故を誘発するおそれのある箇所は詳細に検討されての判断になるということである。

また、国土交通省第二国道維持出張所の配慮と伊予交通安全協会中山支部や地域の方々の協力による指摘箇所周辺の竹林や雑木の伐採により、随分見通しもよくなった。

点滅信号機の設置の可能性はあるのではと思っているが、仮

に採択されても、現段階では予算措置等の事情から、着手は2年程度先になるとの見通しである。

いずれにしても、市民が交通事故の犠牲にならないよう、安心で安全な環境を整備することは大変重要であると認識している。市としても地域の要望に沿うよう関係機関に働きかけたい。

一人暮らしし老人の見回りについて

問

核家族化、家庭の事情、個人の考え方等により75歳以上の一人暮らしの方が増えている。老人の健康を守るために市では、さまざまな取組をしているが、地域のつながり、近所付き合いの薄れる中、孤独死を招かないよう安心・安全な生活をおくるための対応を問う。

答

市民福祉部長

民生委員は担当地区内をくまなく回り、高齢者をはじめ、広く支援を必要とする方を把握するとともに、問題がある場合には、市や社会福祉協議

会など、関係機関との連携により課題解決に努めていただいている。

高齢者家庭相談員についても、民生委員と連携を図りながら対応するということで同数配置しており、一人暮らし高齢者等の居宅を月最低2回以上は訪問し、生活上の相談や不測の事態の防止に努めていただいている。

一人暮らし高齢者等に対する安全確保対策として、おおむね65歳以上の一人暮らし又は高齢者のみの世帯への緊急通報装置の貸与や民間業者による配食サービスの提供時に安否確認を行っている。

そのほか、地域においては、老人クラブの役員が一人暮らしや引越してこられた方などの訪問、あるいは各種団体の方がボランティアとなって、「いきいきサロン」や「敬老の家」事業を実施するなど、高齢者の見守りやひきこもり防止等に努めていただいている。

伊予市に住むすべての高齢者が安心・安全に暮らすためには、広報委員や民生委員等を中心に地域の見守り支援体制の構築が必要と思われる。

今後、社会福祉協議会や民

生児童委員協議会等、社会福祉関係の組織や事業所などと連携し、転入、転居等、生活状況の変化によって地域の見守りネットワーク連携の輪から抜け落ちることが生じないよう体制整備に努め、郵便局や金融機関、新聞や牛乳の配達員等にも協力を依頼するなど、高齢者の見守り支援体制を推進していきたい。

答

長寿介護課長

県下の他市では、月1、2回の電話連絡やはがきでの様子伺いを行っているところもあり、これについて実施できるかどうか、効果を考えながら検討したい。



今日も会話を楽しむお年寄り達